

ポートアイランド の震災 ～仮設住宅編～

概要

今から約30年前の1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生し、阪神間、淡路島では未曾有の大被害を受けました。その後、被災された住民のうち、住宅が再建されるまで、避難所から仮設住宅に住む方がおられました。わたしたちが通うポートアイランドにはたくさんの仮設住宅が建設されました。人と防災未来センターが所蔵するポートアイランド仮設住宅に関する災害資料をとおして、当時の仮設住宅での暮らしを紹介します。

2024年1月12日（金）～1月24日（水）



現代社会学部防災学科 3 年次生水本ゼミによるあいさつ

今から 29 年前の 1995 年 1 月 17 日、午前 5 時 46 分、阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）が発生しました。来年 2025 年 1 月には震災から 30 年を迎えます。

大規模な被害を受けた多くのひとびとは、避難所へ避難しました。自治体は被災した人々のために、仮設住宅を建設しました。

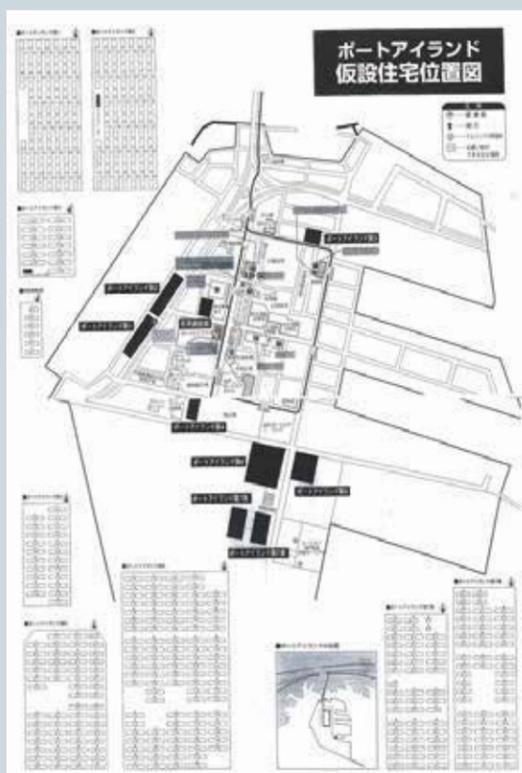
わたしたちが学ぶポートアイランドには、7 か所（第 1～第 7）、約 3,100 戸の仮設住宅がありました。

大地震、津波、風水害などが毎年のように発生しています。ポートアイランドの震災を仮設住宅の視点から一緒に見てみましょう。

ポートアイランド仮設住宅の写真



仮設住宅とポートアイランド



仮設住宅とは

応急仮設住宅は昭和 22 年に制定された災害救助法第 23 条を根拠として設置されます。阪神・淡路大震災当時は、原則的には全壊・全焼又は流失世帯の 3 割以内とされていました。

また、設置期間は同法の一般基準において 2 年間で決められていますが、阪神・淡路大震災では特別基準が適用され順次延長されました。いうまでもなく、阪神・淡路大震災後の建設戸数は、同法施行後の災害の中では群を抜いたものでした。

1995 年 1 月 20 日 着工開始
1995 年 2 月 15 日 入居開始
神戸市内 29,178 戸、神戸市外 3,168 戸（兵庫県総数 48,300 戸）
1995 年 11 月末 入居世帯ピーク 約 31,000 世帯（神戸市）
1999 年 12 月 20 日 全入居者退去（神戸市）

わたしたちが学ぶポートアイランドには、7 か所（第 1～第 7）、約 3,100 戸の仮設住宅がありました。



ふれあいセンター

多くの人が知り合いのいない不慣れた郊外での生活を余儀なくされました。

これらが関連して起きた孤独死や閉じこもりに対する施策が「ふれあいセンター」設置です。

50 戸以上の仮設住宅団地には、集会所としてふれあいセンターが設置されました。入居者の交流の場であると同時に、ボランティアの活動の拠点となりました。



60 cm × 20 cm
千羽鶴



神戸の皆さんお元気ですか
(寄せ書き)



公営住宅募集団地概要



災害復興（賃貸）住宅
入居申込案内書



第 4 仮設住宅のみなさんへ
(励ましの作文集)

ポートアイランド第 2、第 4 仮設住宅ふれあいセンターから寄贈された「人と防災未来センター」所蔵の展示資料

阪神・淡路大震災における特徴

- ①つくられた場所：家屋被害が大きかった市街地だけでは建設用地が不足していたため、土地の確保しやすかった埋立地や郊外の新興住宅街の中の空き地にも建設された。西は播磨地区から東は大阪府内まで広域に点在している。多くの場合、元の生活場所とは異なる場所で暮らすこととなった。
- ②入所時の手続き：要援護者優先の抽選で行われた。その結果、地域や住民同士のつながりの希薄な生活を送ることとなった。
- ③膨大な災害復興公営住宅等の確保が必要であったため、入居期間が3度にわたり延長され、平成10年度からは、半年更新という状況に置かれた。

仮設住宅の生活と支援

- 仮設住宅の入居者は65歳以上の高齢者が3割以上を占め、「超高齢社会」が出現した。
 - 1995年5月以降に仮設住宅独居者の死亡が相次ぎ、「孤独死」として次第に社会問題化した。
 - 死亡者の多くは、無職または不安定なパート労働者だった。自宅への閉じこもり・対人関係の断絶により、過度のアルコール摂取、不十分な栄養、慢性疾患の放置などの結果が孤独死となった。
 - 行政、ボランティアによる様々なケアやコミュニティづくりの支援が展開された。
 - コミュニティをベースとする地域団体と、福祉や医療等の専門性を持つ外部のボランティアとの連携が行われた
 - 当初の仮設住宅の環境は、高齢者や身体障害者には使い勝手が悪いなどの問題があり、ボランティア等による改善も行われた。
 - 隣の物音が響く、夏は暑く、冬は寒い、1人暮らし以外の入居者には狭いなどの問題もあり、改善が図られた。
 - さまざまなボランティア団体や支援団体が訪れ、イベントを実施したり、物資の配布などをおこなった。
 - 退去者が増えるにつれて、自治会活動の担い手不足が問題となっていた。
 - 撤去後の仮設住宅は、海外の被災地への提供などにより再利用されたものもある。
- ⇒仮設住宅計約1,900戸を受けてトルコ政府（トルコ北西部地震被災地）へ

神戸市内の仮設住宅

- 1995年1月17日 震災発生 1月19日 第1次発注
- 1月20日 着工開始
- 2月15日 入居開始
- 8月11日 神戸市内 29,178戸、市外 3,168戸建設（兵庫県総数 48,300戸）
- 11月末 入居世帯ピーク 約 31,000世帯（神戸市）
- 1999年12月20日 全入居者退去（神戸市）

神戸市内の避難所

- ピーク時
避難所数 599カ所（1月26日）
就寝者数 222,127人（1月18日）*就寝者数・・・寝泊りした人数
避難者数 236,899人（1月24日）*避難者数・・・弁当をもらいに来た人数
- 避難所以外 公園などにテントを張って生活する人や、市外・県外へ避難する人も多数いました。
- 避難所の閉鎖と待機所
1995年8月20日、神戸市は避難所を閉鎖。
この時点の避難者6,672人が暫定的に生活する場として、待機所12カ所を設置。
旧避難所、待機所が全て終了したのは1998年12月17日です。

スマホで見る阪神・淡路大震災

大阪震災淡路
スマホで見える
1995.1.17
災害映像がつむぐ
未来への教訓
QRコードで見る映像357
震度7の震災アーカイブ

①仮設住宅の建設前
②いつ避難所を出るかを心配
③仮設住宅内を見て涙ぐむ避難者の表情
④「早く企業が仮設住宅に入居するように」
⑤「早く仮設住宅が建てられよう」

当時の映像
を見てみま
しょう！

スマホで見る阪神淡路大震災：災害映像がつむぐ未来への教訓
木戸崇之、朝日放送テレビ株式会社、-- 西日本出版社、2020。<BB00473282>

④-7行録 2階震災 369.31/SUM 121046048

阪神・淡路大震災

名称	兵庫県南部地震
発生日時	1995年1月17日(火) 午前5時46分
震源	兵庫県淡路島北部 北緯34度36分 東経135度02分
震源の深さ	約16キロメートル
規模	マグニチュード7.3



展示企画

現代社会学部防災学科 3年次生水本ゼミ

展示資料

人と防災未来センター所蔵 震災資料 16点、ゼミ作成パネル

参考文献

人と防災未来センター資料室 HP <https://www.dri.ne.jp/material/room/about/>

※神戸市立図書館「阪神・淡路大震災を知る、調べる 被災後の住まい について調べる」

※兵庫県こころのケアセンター https://www.j-hits.org/document/hanshin_awaji/page2.html

※内閣府防災情報のページ「阪神・淡路大震災教訓情報資料集【01】仮設住宅の生活と支援」

https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awaji/data/detail/4-1-1.html



人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

開館時間 9:30～17:30（入館は16:30まで）

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始の12月31日と1月1日

ACCESS

阪神電鉄 岩屋駅、春日野道駅から徒歩約10分

JR 灘駅 南口から徒歩12分

阪急電鉄 王子公園駅 西口から徒歩約20分

SeaScape

第32号 2024年1月発行

発行・編集 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館

〒650-8586 神戸市中央区港島1丁目1番3